

勝田高校図書館だより

平成30年度 第2号

平成30年5月31日発行



1年生の皆さん、高校の生活には慣れましたか？初めての定期考査を終え、いよいよ本格的に高校生活に入ったことと思います。緊張がほどけてきたこの時期は、意外と3年間の生活の在り方を決める時期でもあります。毎日を大切にリズムを整えてください。2・3年生の皆さんは、学習は勿論、部活動の大会や趣味に忙しく過ごしているという人も多いと思います。

一方で、気温差や忙しさのために体調を崩している人もいます。時には時間に追われずに、ゆっくり本の世界を楽しんでみませんか？図書委員会では、皆さんが活用しやすい居心地の良い場所でありたいと考えています。考査前は学習をするために足を運んでいた1年生の姿が見られましたが、ほっとしたい時、静かな空間を求めたい時も、是非図書館に足を運んでください。

五月のうた（歌）

すめらみこと おほみうた

天皇の御製歌

春過ぎて夏来るらし白たへの衣干したり天の香具山

（『万葉集』巻第一・28）



意味：（持統）天皇がお作りになった歌

春が過ぎて夏がやってきたらしい。真っ白な衣が干してある。天の香具山に。

今日で5月も終わりです。まさに衣替えの時期ですが、夏服に替わるこの季節になると、毎年この歌を思い出します。今年は5月15日が陰暦の4月1日でした。陰暦では4・5・6月が夏に当たりますから、ちょうど田植えの時期から今頃の、爽やかな風が吹き渡る季節を感じる歌です。「白たへ」とは「白袴」。「袴」は「櫓」の樹皮で作った衣のことですが、「香具山」が神聖な山として意識されていたことから考えると、田植えの神事に従事する五月女たちの斎衣のことではないかと言われています。明るい初夏の光の中、緑繁る山に白い斎衣がたなびく景色を想像するだけで、冬の厚着に慣れた肩も、そして心も少し軽くなるような気がします。持統天皇は、皆さんご存じのように女性の天皇です。天智天皇の第二皇女であり、天武天皇の皇后でもありました。天武天皇の死後政務を執り、皇太子草壁皇子の病死によって即位しました。この歌は、単純なものではないでしょうが、持統天皇の感性や視点が表れた作品であると感じます。1300年の時を超えて、共鳴したり、同じような感覚を蘇らせることができるのも文学の魅力ではないでしょうか。

✿図書委員会委員長・副委員長の紹介を兼ねて、「春」・「夏」もしくは春から夏への季節の移り変わりを感じる一冊をそれぞれに選んでもらいました。気になる作品はありますか？

『カエルの楽園』 百田 尚樹

春は芽吹き季節。冬は土の中で眠っていたカエルたちも起き出します。この作品は、そんなカエルたちが主人公です。アマガエルやトノサマガエルたちがまるで人間のように歩いて、話して、歌って、考える。作者が「この本を書くために作家になった」と言う程の傑作です。暑くなってきましたが、春の余韻も残る今の季節にぜひ読んでほしいと思っています。（委員長）



『屋上のウインドノーツ』 額賀 滯

「悔しいのを泣いて外に出すな。全部溜め込んで。涙なんかにするな。泣くだけの余裕があるなら練習しろ。」これは初めての大会で負けてしまい、悔し泣きをする主人公に先輩が言った言葉です。誇れるものが何一つなかった主人公が中学生になり、偶然入部した吹奏楽部で沢山の仲間と出会い、時に傷つけ合ったり高め合ったりする姿は、さわやかな感動を呼び起こします。（副委員長）

『天久鷹央の推理カルテ』 知念 実希人

春と言えば出会い。新しい職場や上司、同僚との出会いに季節を感じます。学校では、入学式やクラス替えなどが新しい季節の訪れを実感させます。

私がこの本を好きな理由は、コメディとミステリーの要素が入っているからです。医療に絡んだ謎と一緒に解きながら読み進められます。また、知らなかった新しい世界について知ることが出来るのも魅力の一つです。

（副委員長）



☆5月の図書館のカウンター当番を務めている2年生が、「6月」に縁のあるキーワードをそれぞれ選び、関連する一冊の本を選びました。図書館入り口に展示しています。お楽しみに。

☆6月は、1年生の図書委員が初めてカウンター業務を担当します。よろしくお願いします。

☆1年生の「国語総合現代文」・2年生の「現代文B」の授業では、それぞれ第1回定期考査後は小説を読む学習になります。その作品の作者である芥川龍之介（1年『羅生門』）と中島敦（2年『山月記』）に関連する書籍を展示したコーナーを館内に設けました。是非ご覧ください。